



霞ヶ浦鉄道・新都市高速鉄道
事業報告書

2016

● 目 次

● 霞ヶ浦鉄道・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.3

■ 事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4

①新型車両導入による車両置き換え

②特急列車の運行形態の改善

● 新都市高速鉄道・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.6

■ 事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.7

①空港連絡列車のリニューアル

■ 対処すべき課題・・・・・・・・・・・・・・・・ P.7

● ご あ い さ つ

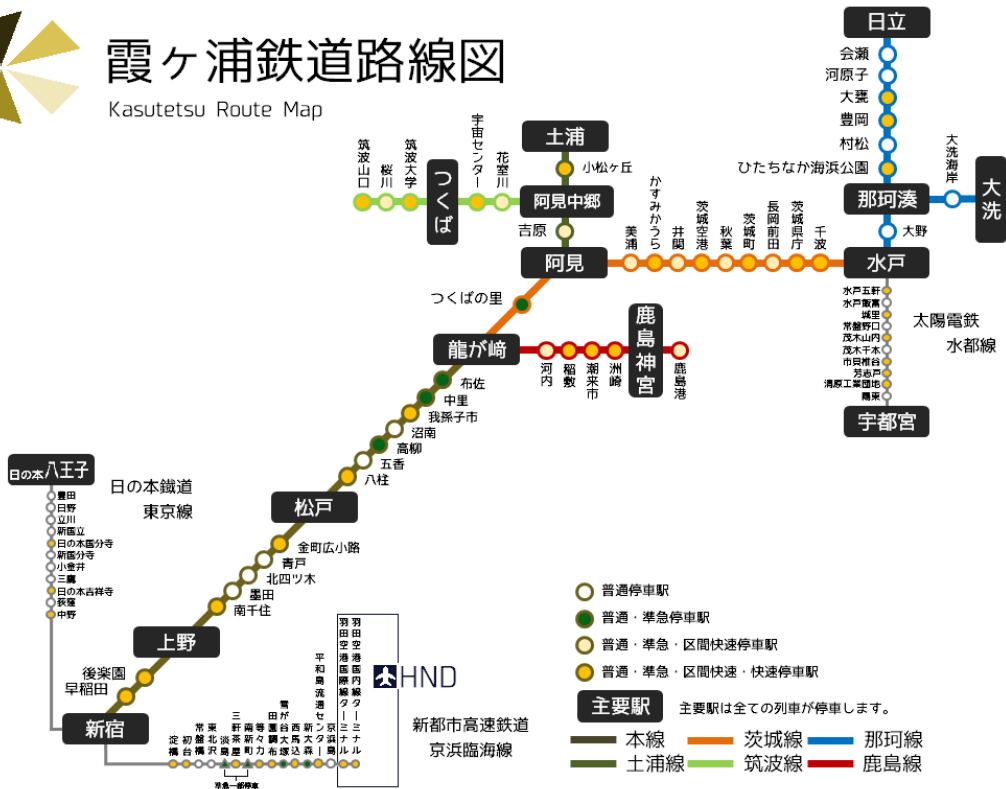
「霞ヶ浦鉄道・新都市高速鉄道事業報告書」をお手に取っていただきありがとうございます。新都市グループは、2016年7月よりインターネット上に公開するようになってから5年という節目の年を迎えることができました。この5年の間に公開場所はブログからサイトやTwitterへ変わり、多くのグループ会社を率いることとなりました。当初はここまで大きくことは考えていなかったのですが…不思議でなりません。そして、何よりも激動の架空鉄道業界の只中であって多くの架鉄業者の方々とお付き合いをさせていただきました。ありがとうございました。本稿は、公開5周年にあたり今までの回顧録でもあり、これからの指標となるものです。気になることがありましたらご意見いただけると幸いです。これからも変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

新都市グループメンバー一同

霞ヶ浦鉄道

霞ヶ浦鉄道路線図

Kasutetsu Route Map



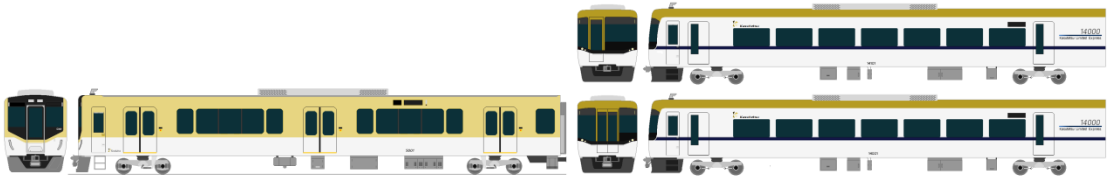
〈路線データ〉

- ①本線 新宿～龍ヶ崎間 58.51km/四ツ木～北四ツ木間 0.8km
- ②茨城線 龍ヶ崎～水戸間 63.3km
- ③那珂線 水戸～大洗間 16.88km/那珂湊～日立間 28.67km
- ④土浦線 阿見～土浦間 13.2km
- ⑤筑波線 阿見中郷～筑波山口間 25.7km
- ⑥鹿島線 龍ヶ崎～鹿島港間 49.6km

■ 事業報告

①新型車両導入による車両置き換え

当社では、今後の少子高齢化社会の到来と着席需要の取り込みのための特急増発に対応する為に通勤型車両1形式・特急型車両1形式、機関車1形式、計3形式の導入を行いました。



(左) 5000系通勤型電車 (右) 14000系特急型電車

5000系電車は、1975年から製造された800系後期車と2011年に譲渡された8000系の置き換えの為に開発製造しました。これにより、当社で初3ドア転換クロスシート車の快速都心乗り入れを2017年度より開始する予定です。また、当該車両を当社標準車両として、ブランドイメージの定着を図ります。技術面では、既存の3000系、7000系、7500系電車での800系初期車と1000系の置き換えと併せて交流区間での普通車最高時速130キロメートルを達成し、普通・快速列車の速達性の向上の他、特急列車の更なる速達化へのベースアップを図ります。

14000系電車は、2016年度新設された特急うめかぜ並びに既存の特急すずなり、特急よしきりに投入する為に開発製造しました。当車両は、連結併合を行うことを考慮して6両の基本編成と3両の付属編成が製造され、基本編成は主にうめかぜ号、付属編成は主にすずなり・よしきり号の運用に就きます。基本的設計は、先に製造された12000系電車に準拠し、先般からの課題であった特急かすみと他支線特急間のサービス格差をなくし、快適な移動空間の創出に取り組みました。

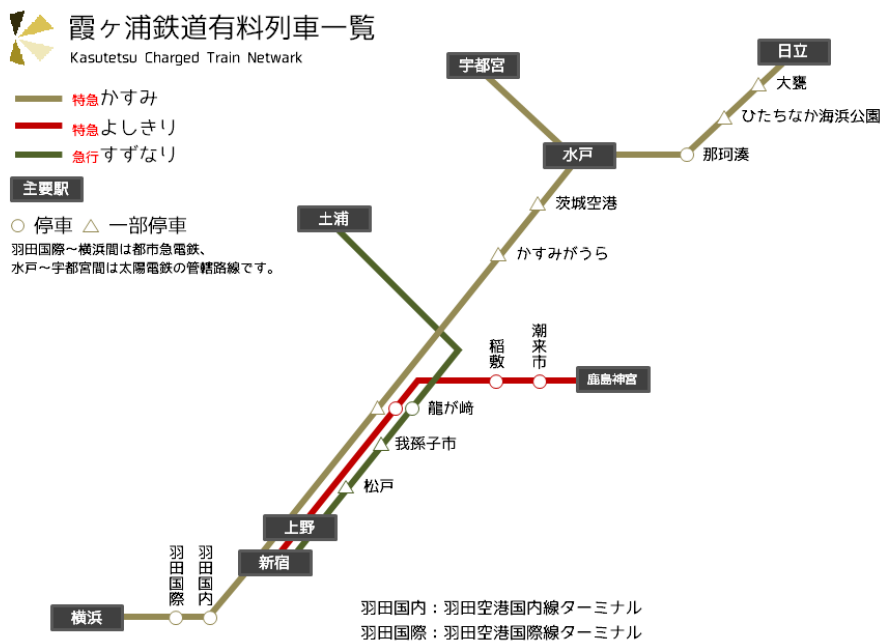


(左) EL100型電気機関車

EL100 型電気機関車は、既存の DL10 型ディーゼル機関車の貨物運用の置き換えの為に製造しました。製造にあたって、太陽電気鉄道の E302 型電気機関車の設計を参考にし、当社に合った車両に設計変更を行いました。これにより、鹿島線貨物列車のスピードアップを図り、旅客列車のダイヤ上の制約を少なくしました。

②特急列車の運行形態の改善

2016 年度、当社では着席サービスの向上と特急列車の利便性の向上を図るため特急列車の運行形態の大きな見直しを行いました。

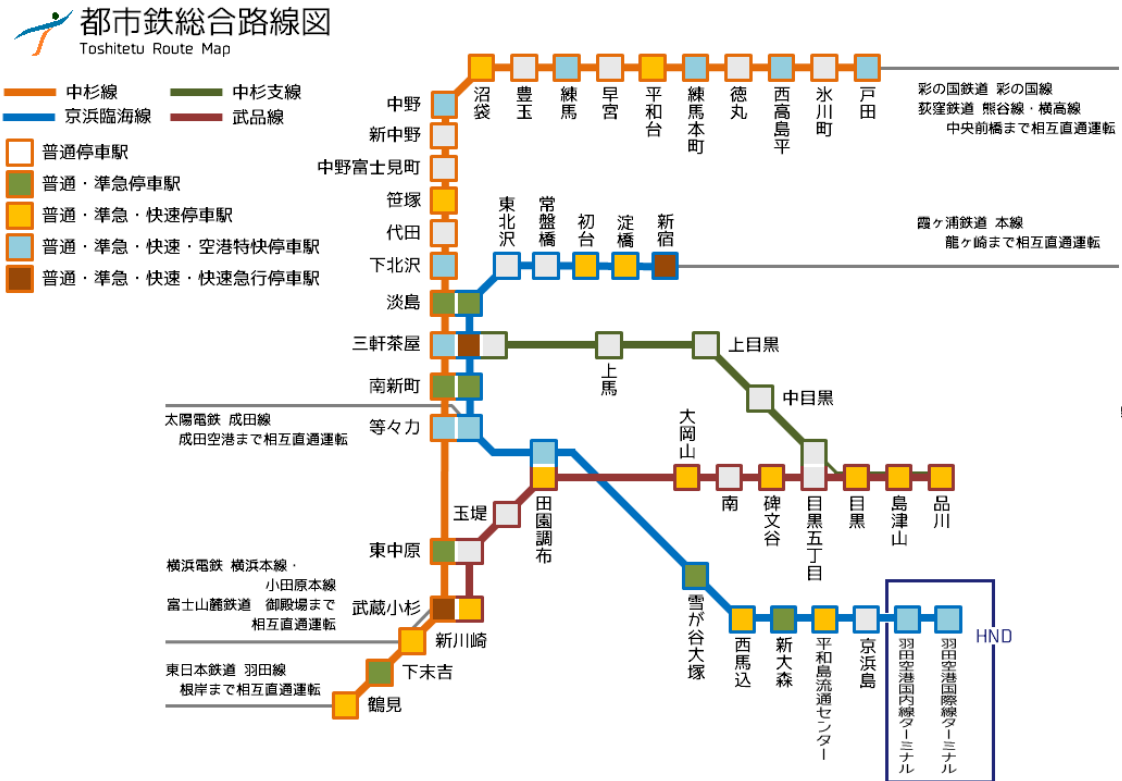


（上）2015 年度以前の特急列車運行形態

2015 年以前の特急では、上野～水戸間ノンストップの速達タイプ、龍ヶ崎や茨城空港に停車する途中停車タイプの列車どちらも特急かすみとして運転していましたが、今年度改正では、速達タイプのみを「かすみ」とし、途中停車タイプを新設する「うめかぜ」とすることにより差別化をはかりました。それに加えて、先述した 14000 系電車の導入により「かすみ」「うめかぜ」の毎時 1 本ずつの運行が可能になり日中でも新宿～水戸間の特急運転本数が毎時 2 本となりました。また、列車の連結併合を可能にしたことにより、「うめかぜ」に併結して支線系統の特急である「すずなり」「よしきり」も

更なる高頻度の運行が可能になりました。2017年度改正では、これら特急に加えて筑波山口への特急「にいばり」を設定する予定です。

● 新都市高速鉄道



〈路線データ〉

①中杉線 鶴見～蕨間 27.05km / 目黒五丁目～三軒茶屋間 4.1km

※戸田～蕨間(2.36km)は、第三種鉄道事業者

②京浜臨海線 新宿～羽田空港国際線ターミナル間 17.05km

③武品線 品川～東中原間 13.7km

■ 事業報告

①空港連絡列車のリニューアル

当社では、今年度太陽電気鉄道との成田空港～羽田空港間相互直通運転 5 周年を機に空港連絡列車の大幅なリニューアルを行いました。特に、Skyport・Skybird 用の 100000 系特急型電車と TAILWIND 用の 60000 系特急電車を重点的に見直しました。



(左) 100000 系電車 (右) 60000 系電車

100000 系電車は、今後増加が予想される外国人旅行客へのサービス向上を狙い外装・内装共に見直しを行いました。塗装デザインは、「和の凜」をモチーフに「日本を表すと共に四季の恵みをもたらす空の太陽」を表した深緋、「地上に実る稲穂」を表す金色、「様々な恵みを与える海」を表す紺碧をあしらいました。

60000 系電車は、今後のブランドイメージの定着を狙い都市鉄・横電・富士鉄特急列車標準塗装に準拠した塗装を施しました。先頭車両には、空港連絡列車を表す飛行機のマークをあしらいました。

■ 対処すべき課題

当社では、路線網の関係上殆ど全ての路線において相互直通運転を行っています。そのため、直通先の関係他社とも密に協力しつつ、安全運行に向けて取り組みを行ってまいります。特に、今年度 5 周年を迎えた成田＝羽田間直通運転や横浜電鉄との東海道直通運転は当社にとって要であり、今後も重点的に改正を行ってまいります。具体的には、ダイヤの策定・修正や運行設備の更新により地道に取り組み成長を目指します。また、今年度から品川からの直通が中止となった武品線についても東海道直通運転の枠に捉え抜本的な改革を行ってまいります。